

農業の登録内容は頻繁に変更されます。農業は最新情報を確認して使用しましょう。最新情報は府・農の普及課、JA、Web版大阪府農作物病害虫防除指針 (<http://www.jpnp.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>) から。農産物の病害虫発生予防については大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ (<http://www.jpnp.ne.jp/osaka/>)

営農総合センター 営農指導課 (072-444-8001)



## 野菜

### たまねぎ

**病害虫防除**  
4月上旬～5月上旬に曇雨天の日が続くと白色疫病やべと病の発生が多くなる。常発地や排水の悪い場合は特に注意する。溝を切って排水を良くするなど、耕種的防除に努める。

### 水なす

#### 露地(トンネル早熟)栽培

水なすのトンネル早熟栽培は4月中旬以降に定植時期に入る。露地栽培では無理な早植は低温障害を受け、適期に定植した場合より生育が遅れることがあるので、4月下旬以降、遅霜の心配のなくなった頃に定植する。水なすは作期の長い野菜である。そのため、作付けほ場には、乾燥牛ふんなどの粗大有機物や堆肥、石灰質肥料、苦土肥料などを定植の1か月前に施し、土になじませておく。

元肥は定植2週間前に施す。収量は根の量に大きく左右されるので、できるだけ高いうねを作り、深くまで根が広がるようにする。定植7日前には、植え

表1 たまねぎのべと病、白色疫病に登録がある農薬

薬 剤 名	希釈倍数	使用時期/使用回数	10a当たり散布液量
リドミルゴールドMZ	1000倍	収穫7日前まで/3回以内	100～300ℓ/10a
ホライズンドライフロアブル	2500倍	収穫3日前まで/3回以内	100～300ℓ/10a

水なす定植適期の苗(4～5号ポットの苗)

- ①葉数9枚前後、葉が大きすぎず厚みがある。
- ②株が充実している。
- ③1番花の蕾が大きく充実している。(蕾が下を向いている～開花始め)
- ④根が白く根量が多い。
- ⑤1番花の直下の側枝が育っている。
- ⑥台木と穂木の癒合部がしっかりしている。
- ⑦病害虫の発生がない。



表2 なすのアブラムシ類に登録がある農薬

薬 剤 名	使用量	使用時期/使用回数/使用方法
アルバリン粒剤	1g/株	定植時/1回/植穴土壌混和
アドマイヤー1粒剤	1～2g/株	定植時/1回/植穴または株元土壌混和

表3 ねぎのさび病に登録がある農薬

	薬 剤 名	希釈倍数	使用時期/使用回数	10a当たり散布液量
予防的防除	ベンコゼブ水和剤	600倍	収穫14日前まで/3回以内	100～300ℓ/10a
発病を認めた場合の初期防除	アミスター20フロアブル	2000倍	収穫3日前まで/4回以内	100～300ℓ/10a
	ラリー水和剤	2000倍	収穫7日前まで/3回以内	150～300ℓ/10a

※アミスター20フロアブルでは、浸透性を高める効果のある展着剤(ニーズ等)を混用すると薬害を生じる場合があるので、事前に確認する。

表4 しゅんぎくのマメハモグリバエに登録がある農薬

薬 剤 名	希釈倍数・使用量(使用方法)	使用時期/使用回数	10a当たり散布液量
ベストガード粒剤	9kg/10a(生育期株元処理)	収穫3日前まで/1回	-
アフーム乳剤	2000倍	収穫7日前まで/2回以内	100～300ℓ/10a
カスケード乳剤	2000～4000倍	収穫7日前まで/2回以内	100～300ℓ/10a
トリガード液剤	1000倍	収穫7日前まで/2回以内	100～300ℓ/10a

※トリガード液剤は、ハモグリバエ類で登録がある。

減らすことができる。マメハモグリバエに登録のある主な農薬は表4のとおりである。

4～6月はべと病の被害が多くなるので、葉面へのかん水を控えるなど過湿対策を行ない、発生前にはZボルドー(5000倍/1/1)で防除する。

\*Zボルドーは、野菜類で登録がある。



### 非結球あぶらな科葉菜類(こまつな、しろな、みずな等)

#### 病害虫防除

ハウスでは白さび病の発生が多くなるので、は種量を適正にし、密植にならないように注意する。発生時には、初期にランマンフロアブル(2000倍/収穫3日前まで/3回以内)で防除する。

## 果樹

### みかん

#### 苗木の定植

植えた苗木を早く大きくするには、大きな円柱形の植え穴を

掘り(直径1m、深さ1m)下層部にヨウリンや完熟堆肥、苦土石灰などを入れて埋戻す。

植え付け時には根を乾燥させないように、根を四方に広げて盛り土をし、定植後は支柱を立てて十分かん水する。植え付け後、いくらか陥没するため、深植えにならないように(接ぎ木部が土の中に埋まると樹勢が弱る)注意する。

特に、一年生苗を植える場合は、30cm位の所で切り返して、支柱を立てる。苗が細い場合は、もつと短く20cm位まで切り返す。長く残して切り返したり、あるいは切り返さない場合には弱い枝が多く出て主枝にする強い枝が出ない。

**病害虫防除**  
そうか病は、発芽直後から新葉で発病し、幼果に感染し傷果になるため、昨年発生が多かった園では、発芽前にデランフロアブル(1000倍/収穫30日前まで/3回以内)または、トップジンM水和剤(1000倍/1500倍/収穫前日まで/5回以内)を散布する。

なお、3月にマシン油剤を散布した園では、葉害を避けるためデランフロアブルとの散布間隔を約1か月あけるようにする。

\*デランフロアブルは、かんきつで登録がある。

**もも**  
**摘蕾・摘花**  
ももは着果数の20～30倍の花をつける。全て開花・結実させると養分が不足し、新梢の伸びや果実の肥大が悪くなる。花粉の多い白鳳などの品種を中心に作業を行なう。結実の悪い清水白桃などは、結実を確保するために軽めの摘蕾・摘花とする。残す蕾の位置は、結果枝の長さで異なるが、どの場合でも枝の基部や上向きに蕾は全て摘み取り、葉芽近くにある蕾を残す。

**病害虫防除**  
落花後、黒星病の予防にベルクト水和剤(2000倍/収穫前日まで/3回以内)を、また、灰星病、うどんこ病の予防にもベルクト水和剤(1000倍/2000倍/収穫前日まで/3回以内)を散布する。アブラムシ類、シンクイムシ類の防除にはアデオン乳剤(2000倍/3000倍/収穫7日前まで/6回以内)を、また、モモハモグリガの防除にもアデオン乳剤(2000倍/4000倍/収穫7日前まで/6回以内)を散布する。なお、せん孔細菌

病の多発園ではデランフロアブル(600～1000倍/収穫7日前まで/4回以内)を散布する。

**うめ**  
**実肥**  
果実があまり大き粒大に肥大した頃に一回目の生理落果があり、この生理落果が終わる4月中旬頃に10a当たりいずみの化成888を20kg、硫加10kgを施用する。

**病害虫防除**  
アブラムシ類が発生しやすくなる。葉が巻いてからでは遅いので、発生初期にアデオン乳剤(3000倍/収穫前日まで/2回以内)を散布する。果実表面がかさぶた状になるかいう病の多発園では、マイコシールド(1500倍/収穫21日前まで/4回以内)を散布する。

4月下旬には果実表面に黒い斑点がでる黒星病対策には、トップジンM水和剤(1000倍/1500倍/収穫21日前まで/3回以内)を散布する。

\*トップジンM水和剤は、小粒核果類で登録がある。